

# 教育長だより

No. 9

2022年6月21日

## 戦争をどう伝えるか？

～ 子どもと共に考えるきっかけに ～

連日テレビから流れるウクライナでの戦争。ロシアの侵略によってウクライナの町や村はことごとく破壊され、亡くなる人も数えきれないとのこと。次々と映し出される戦闘場面、そして、親族の死に直面して泣き崩れる人も出てきます。日本の子どもたちもこうした映像を目(ま)の当たりにして、どう捉えたらいいのか混乱していることでしょう。そして、その答えを一番身近な親や先生に求めてくるのは当然のことだと思います。

また、この滋賀県にも、はるばるウクライナから避難してきた人たちの様子が紹介されています。日曜日には、隣の栗東市にきた子が小学校に通い始め、日本語に苦労しながら奮闘している姿が放映されていました。また、彦根市の身寄りをたどって避難してきた人は、キッチンカーでウクライナ料理を販売して何とか自立を図っている様子もありました。

さらに、この戦争が大きなきっかけとなり、日本だけでなく世界中がインフレになってきているニュースも頻繁に伝えられてます。今、子どもたちも戦争を身近に考えざるを得ない状況です。

そんな「戦争をどう考えるのか」について、興味深い新聞記事がありましたので、紹介します。

先日(4/22)堺市北部のある小学校6年生の授業が朝日新聞に載っていました。社会科の時間、広島への原爆投下で母を亡くした女の子の作文を先生が紹介するところから始まりました。教室は静まり返り、涙を浮かべて聴く子もいました。そのあとはクラスでの意見の交流です。まずはやんちゃなAさんが「原爆を落とすように言ったアメリカの大統領が悪い。ロシアも同じや。核で脅そうとしたんや。」Bさん「脅しはだめ。・・・」と続きます。子どもたちが次々と自分の考えを発言している様子が記事になっていました。

この新聞には、子どもの支援活動をしている国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン」が提唱する『子どもと戦争について話をするときの5つのポイント』が紹介されています。次のとおりです。

1. 子どもが『話したい』と思っているときに時間をつくり、耳を傾ける。
2. 子どもの年齢や理解度に合わせて状況を説明する。
3. 子どもの気持ちを受け止める。(子ども自身がサポートされていると感じることが大切)
4. 世界中の大人が問題を解決するために努力していることを伝え、安心を促(うなが)す。
5. 子どもの『助けたい』という気持ちを応援する。

これは保護者向けのようなのですが、学校や園でも準用することができると思います。

また、市内の学校では、これまで広島や長崎、沖縄への修学旅行に取り組んだり、工夫をして平和学習に取り組んできました。そんな話と重ねることもできるのではないのでしょうか。さらに、「命の大切さ」の学習は、すべての校舎で日常的にやっています。今、現実には起きている問題をしっかり見つけ、子どもたちと一緒に考えることが大切ではないのでしょうか。